ー　Ｆｂ．ストーブ　シリーズ　取扱説明書ー

NO．01

この度　　ストーブ　をお買い上げくださり誠にありがとうございます。
※この取扱説明書は大切に保管して下さい。
※　注意事項、組み立て方法、収束方法を必ずよく読みご使用して下さい。

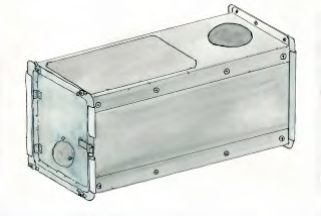
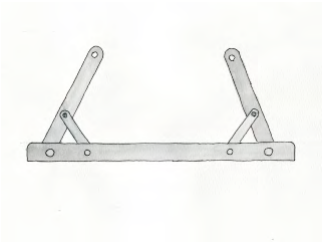
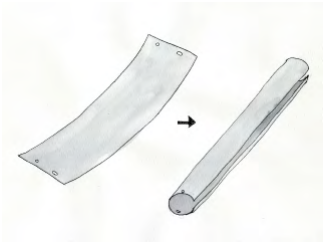
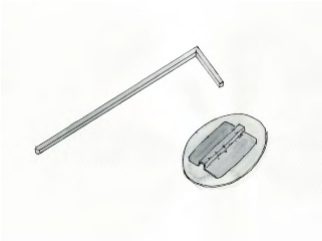
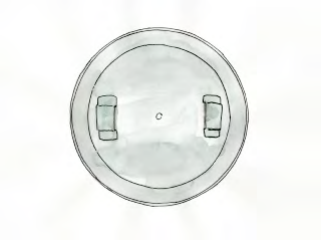
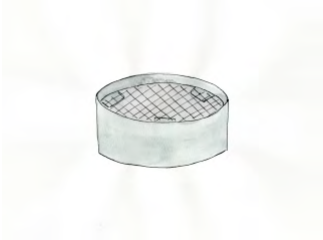
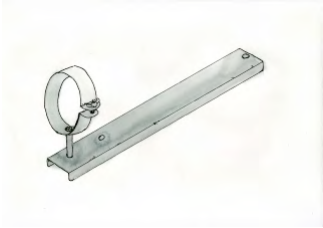
持ち運びにも便利な小型軽量の屋外用薪ストーブ。災害時の非常用としても使用できます。
また、上フタを外せば焚き火台としても使えます。

※ご使用にあたって下記の事に注意して下さい。

- 使用時、組み立て時、収束作業時などは怪我防止の為、軍手・革手袋、火バサミ等のご使用を強くお勧めします。（付属していません）
- 平らで安定した地面で使用してください。
- 使用時は本体・煙突部分が非常に高温になります。消火器又は、水を入れたバケツなどを側に置きヤケド・火災等に備えてください。又、ガス缶や燃えやすい燃料はそばに置かないで下さい。
- 強風時、ストーブの設置が不安定な場合は使用を控えてください。
- 薪、又は木炭以外の燃料は使用しないで下さい。
- バランスがとれず不安定な大きめの鍋などをのせないようにしてください。
- 完全に冷却したのを確認してから解体、収束作業をして下さい。
- 小さな子供や、ペットが近くにいる時は特に注意をお願い致します。
- 密閉された空間、場所での使用はしないようにしてください。必ず吸気、換気が出来るようにしてある場所で使用して下さい。
- このストーブは屋外用です。室内での使用はしないようにしてください。
- テントやタープなどの下や近くで使用する際は、テントやタープを焦がしたり溶かしたりしないよう十分距離をとるか、工夫をして自己責任での使用願います。
- ストーブから離れる場合、就寝される場合は必ず火を消すようにして下さい。
- 組み立て、収束時は必ず、ゆっくりとあせらず作業をしてください。
- 細かいパーツがあるのでなくさないようお願いいたします。

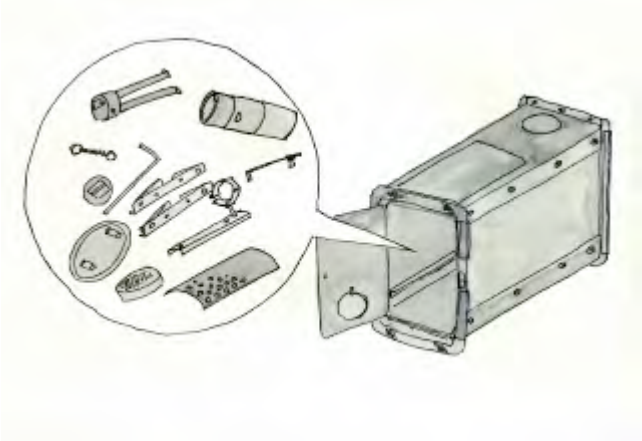
パーツ内容：ストーブ本体　＋　煙突パーツ１本（１ｍ）
サイズ：
Ｆｂ．ストーブＳ４０　本体サイズ：Ｈ ３１ × Ｄ ４３ × Ｗ １７　／　重量 ： 約４．２ kg
Ｆｂ．ストーブＳ５０　本体サイズ：Ｈ ３１ × Ｄ ５３ × Ｗ １７　／　重量 ： 約４．７ kg
Ｆｂ．ストーブＳ６０　本体サイズ：Ｈ ３１ × Ｄ ６３ × Ｗ １７　／　重量 ： 約５．２ kg
煙突長さ　１ｍ　煙突傘頂点高さ　約　１５３　ｃｍ　　煙突筒状収束時　７５φ 長さ：　２７ｃｍ
材質：本体　ステンレス　（ＳＵＳ４３０）
　　脚部・他パーツ　ステンレス　　スキマ止め・アルミ
　　煙突　ステンレス０．１㎜　（ＳＵＳ３０４　バネ鋼）
　　すべてのネジ、ナット部：ステンレス　中子パーツ装備

■ 各部品説明 （各パーツがあるか確認してください）

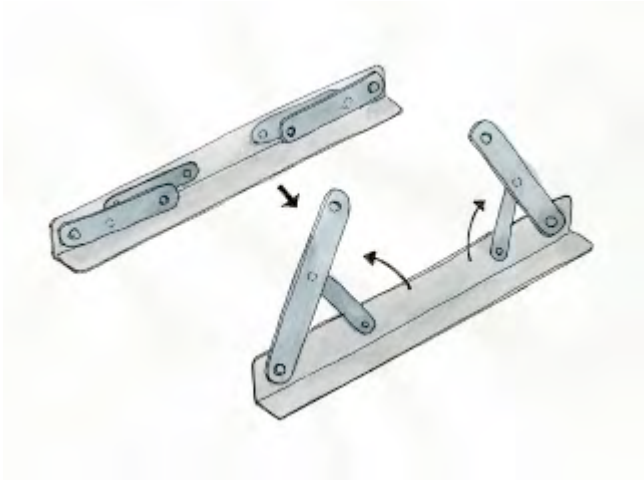
 ストーブ本体 （スキマ止めパーツ 5個）	 脚 ×2	 煙突用薄板 ×1	 ダンパーインナー
 煙突用ワイヤーリング ×4	 ダンパーパーツ レバー＆円盤	 ダンパー調節バネ	 固定ピン ×1 ダブルクリップ ×1
 煙突傘	 煙突傘受け	 火の粉フィルター	 煙突止め＆背骨パーツ （蝶ナットが2個、付属）
 火床パンチング			

※ 本体の図はS40、A40タイプを参考としています。
※ 他のサイズも組み立て方等は基本は変わりません。
※A60、S60サイズは本体の天板パーツが2つに分かれています。
※A50、S50、A60、S60サイズは火床パンチングが2つに分かれています。

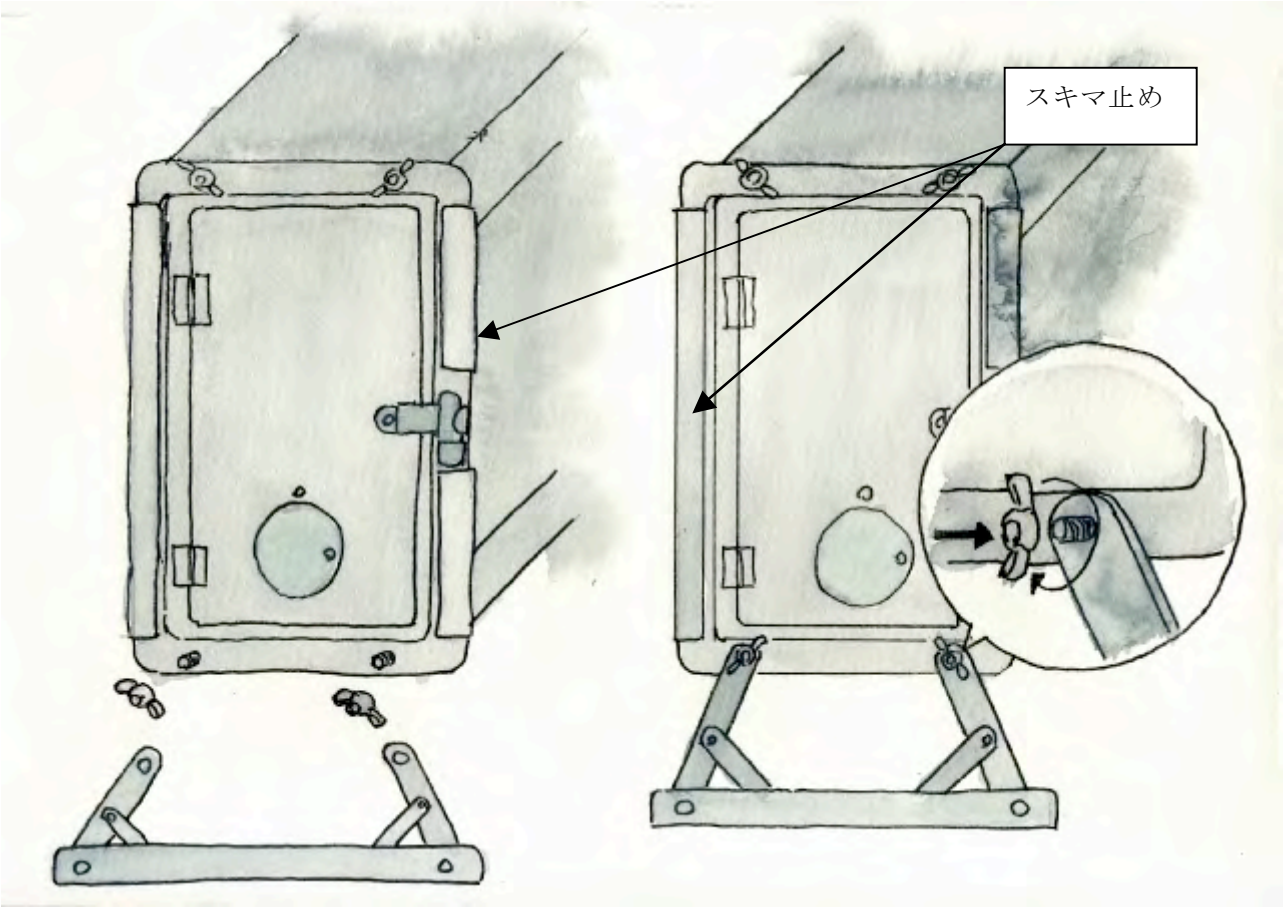
■ 組み立て方 （怪我をしないように軍手や革手袋をするなどして注意をお願い致します）



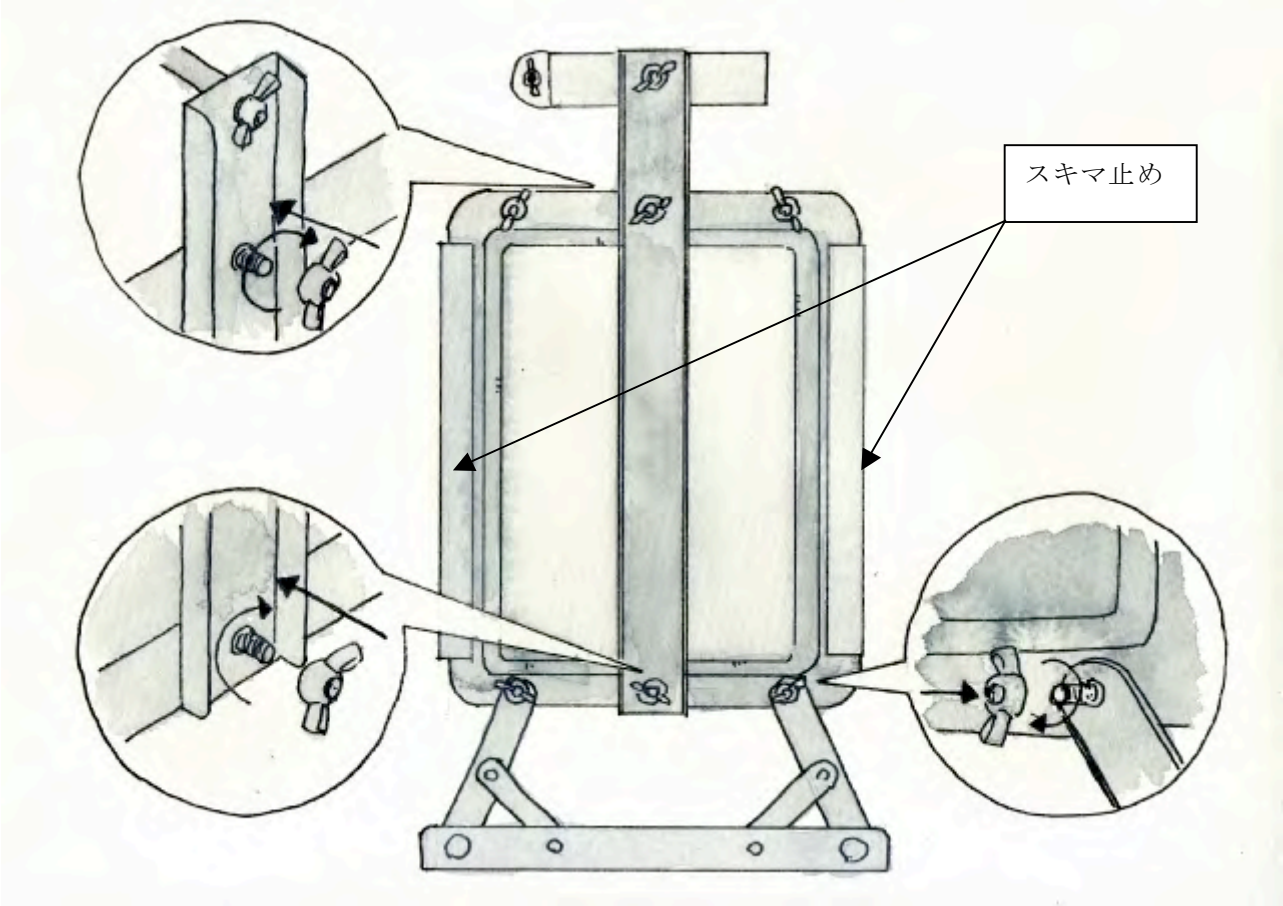
1. ストーブ本体内に収納されているパーツを取り出してください。



2. 図のように折りたたんである脚パーツを展開する。
2パーツあります。



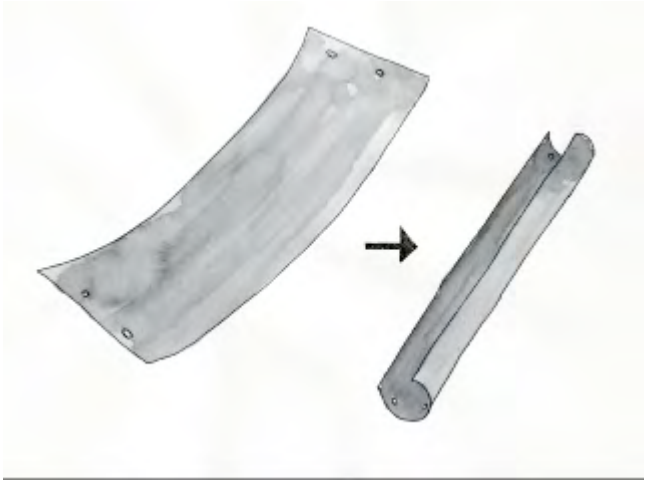
3. 本体前面。
本体前面の下方の蝶ナットを外し、脚パーツを差し込んでから再び蝶ナットで締めて固定させます。



4. 本体後面
前面と同様に、本体後面の下方の蝶ナットを外し、脚パーツを差し込んでから再び蝶ナットで締めて固定させます。

また、煙突止め＆背骨パーツも取り付けます。
背骨パーツは図のように後面中央の蝶ナットを外し背骨パーツの穴に差込んでから、締めて固定させます。
（蝶ナットは最初本体についてあります）

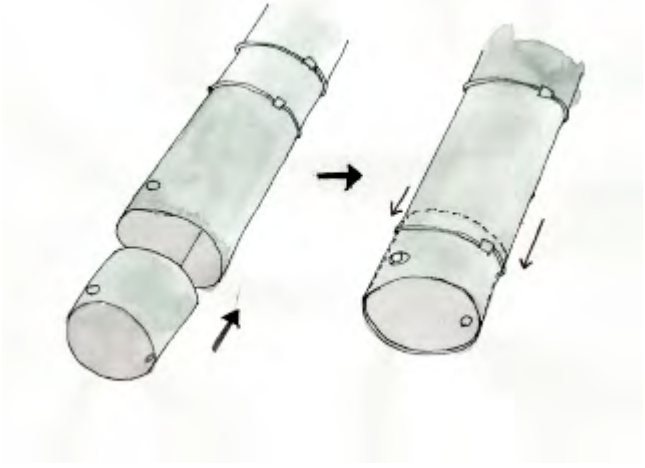
煙突止めは背骨パーツについています。 蝶ナットで締めて固定させています。
（蝶ナットは最初煙突止めに付いてあります）



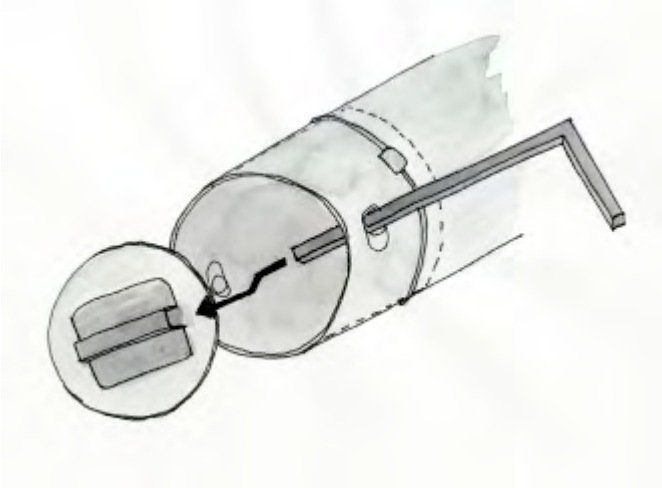
5. 煙突用薄板を図のような方向に丸めます。
丸める時、怪我をしないよう注意してください。

煙突を2mに延長する場合は2本作る。
（煙突の延長方法を参照願います）

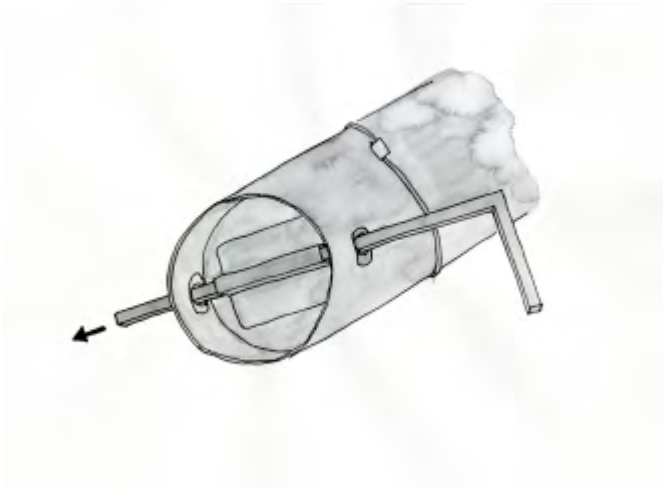
6. 筒状に丸めた煙突薄板にワイヤーリングを4つ通し筒状態を維持させます
ワイヤーリングは少し筒の中央よりに止めておくと、後の作業がやりやすいです。



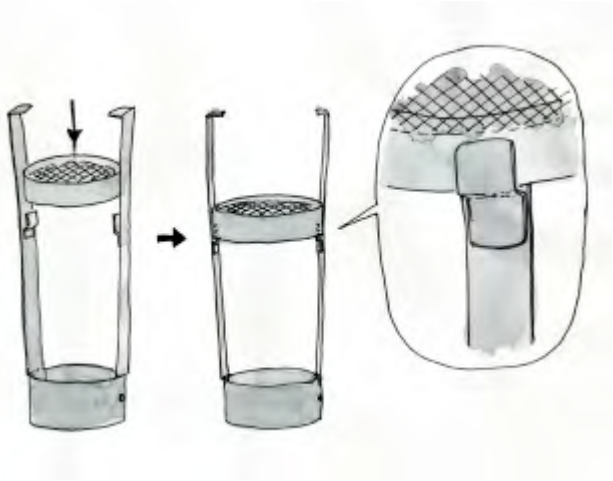
7. 煙突薄板にダンパーインナーをいれて、穴の位置を合わせてから、中央に寄せておいたワイヤーリングを図のように少し先端方向にずらしておく。



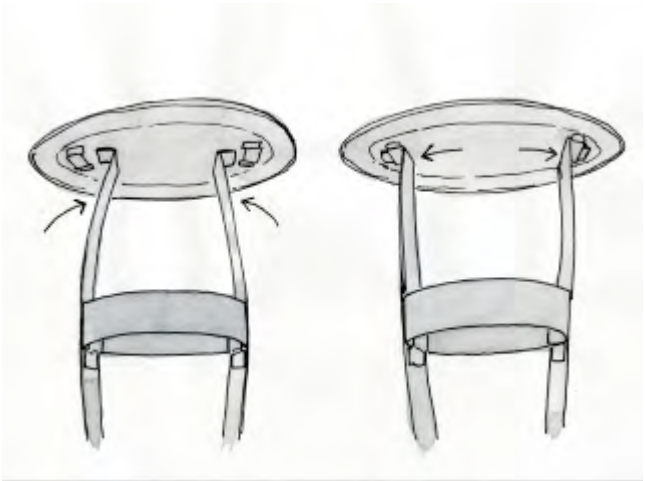
8. 煙突パーツの片端（ダンパーインナーが入っているほう）にダンパーパーツを取り付けます。
図のようにダンパーパーツのレバー部分は先に煙突の穴に通してからダンパー円盤に通してください。



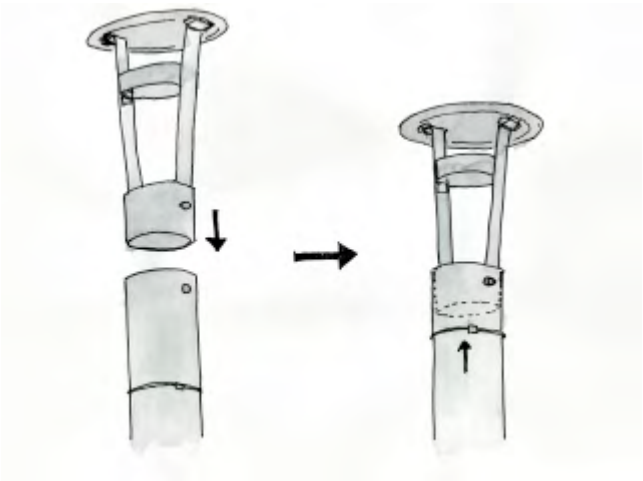
9. ダンパー部分の取り付け
ダンパーレバーの先端は煙突の内側から穴に通す。



10. 煙突傘部分、火の粉フィルターの取り付け
煙突傘受けに火の粉フィルターを図のように取り付けます。

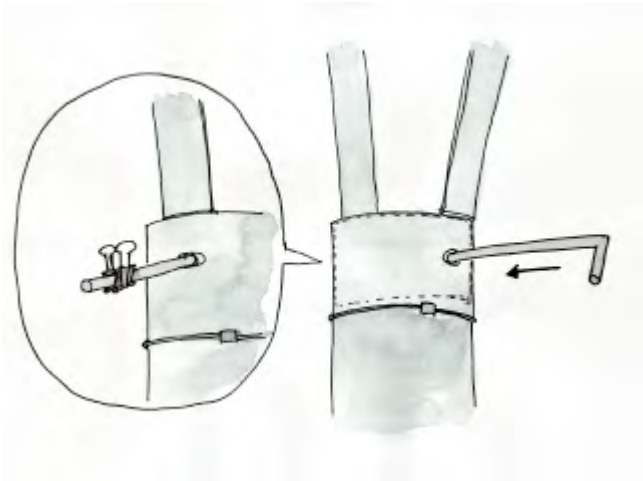


11. 煙突傘部分、傘の取り付け
煙突傘受けのフック部分を図のように引っ掛けるようにさしんで煙突傘を取り付けます。

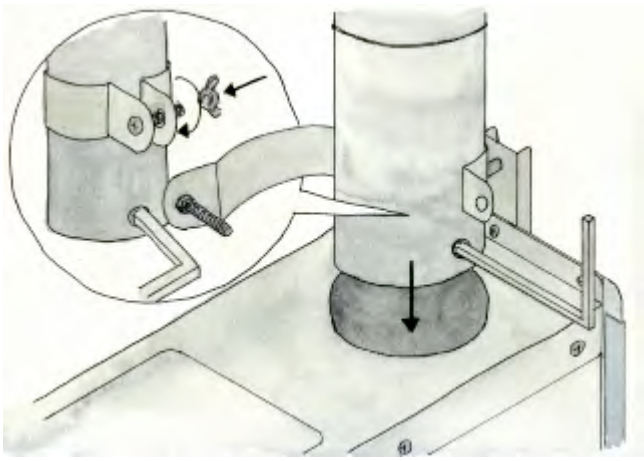


12. 煙突傘部分の取り付け
ダンパー部分を取り付けた反対側の煙突先端部分に煙突傘部分を穴が合うように差し込む。
ワイヤーリングを中央よりにしておくと差し込みやすい。
差し込んだ後、ワイヤーリングを先端方向に少しずらしておく。

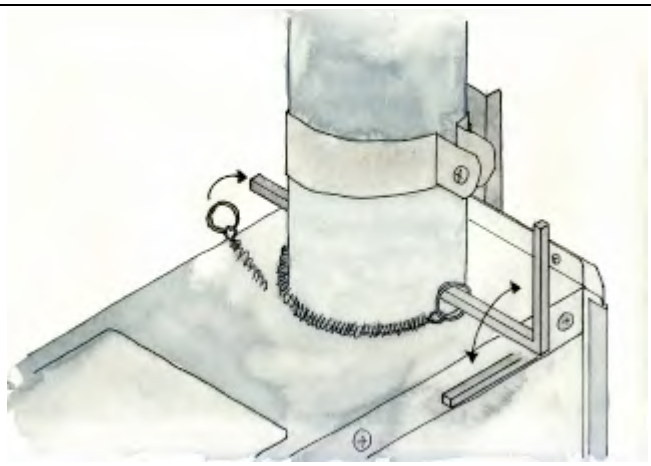
※煙突を延長させた場合は延長側の先端に煙突傘部分を取り付けてください。



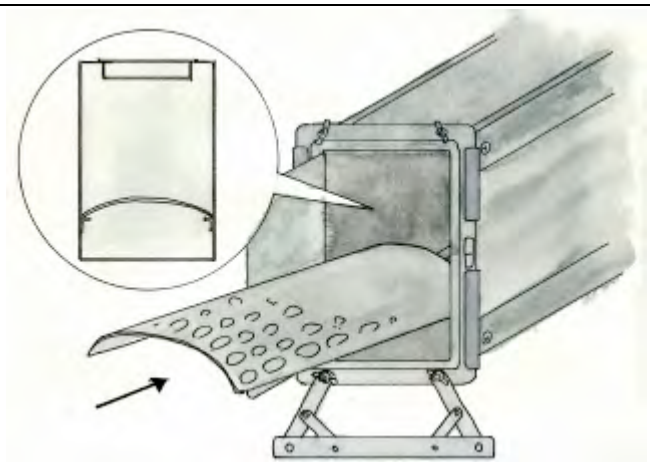
13. 煙突傘部分の固定
煙突傘部分を穴が合うように差し込んだら、その穴に固定ピンを差し込み煙突傘部分が抜けないようにします。
ピンの先端にダブルクリップを留めてピンが抜けにくくしておく。



14. 本体上面の穴に煙突先端を差込んでから、煙突止めを閉じて蝶ナットで締めて固定させます。

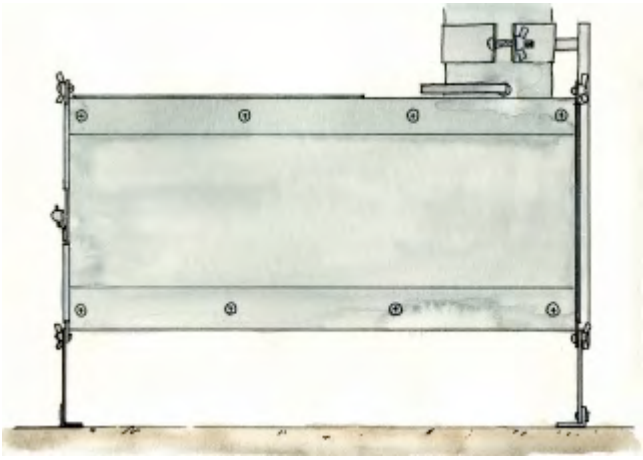


15. ダンパー調節バネの取り付け
レバーL時方向に先にバネ先端の輪を通し、それから反対側のレバー先端にバネの輪を通します。
ダンパーの開閉で煙突からの排気量調節が出来ます。
（燃焼の仕方の調節）

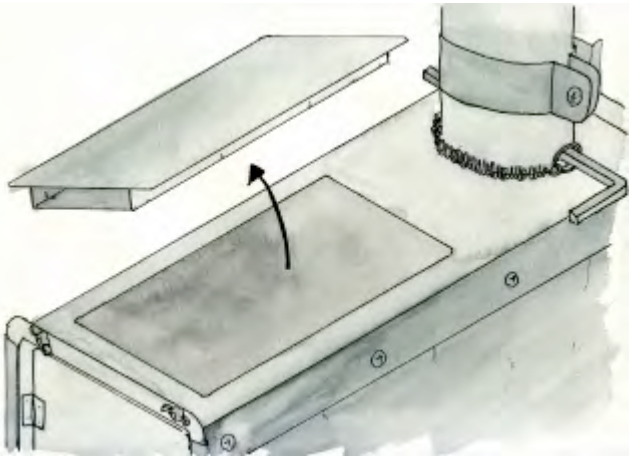


16. 前面の扉をあけ、本体内に火床パンチングを置きます。
本体内側面にある火床パンチング受けの上に置いて下さい

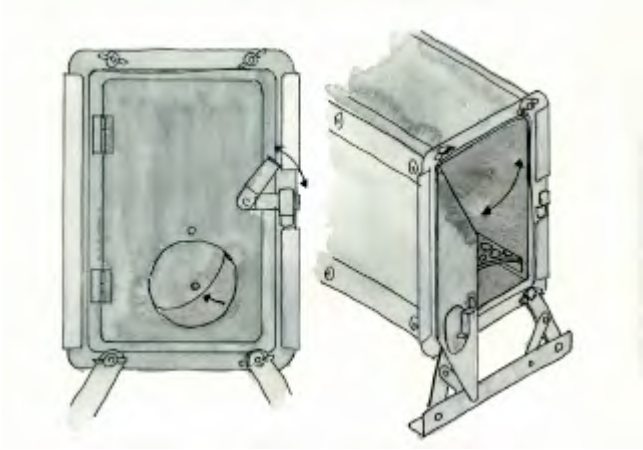
本体内奥に空気を送るための仕掛けです。



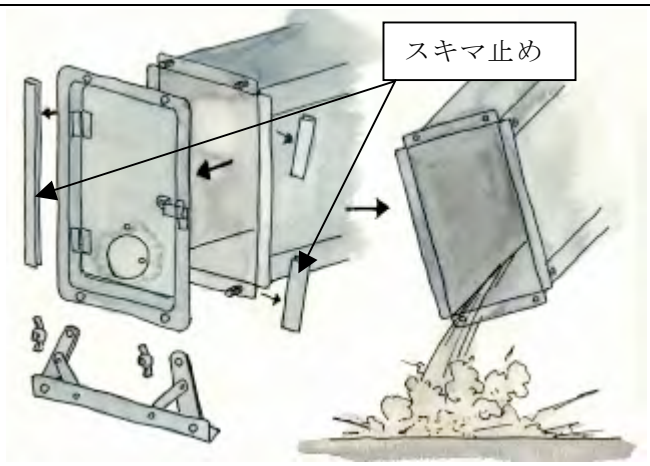
17. 組み立て完成
がたつきがある時は、脚パーツを止めている蝶ナットを緩めて姿勢を調節してから再び蝶ナットを締めてください。



18. 本体上蓋は外れます。
焚き火台として使うとき、炭火焼をしたいとき、中の様子を見たいときなどに外して使ってください。



19. 燃料を入れるため前面には開閉扉があります。
また吸気調整のための小窓があります。
いずれも使用中は高温になるのでやけどしないよう火バサミや革手袋などを使うように注意してください。



20. 灰の処理
前面の蝶ナットを全て外し、スキマ止めを外せば前面板がはずれるのできれいに灰の処理ができます。
（火が消えて完全に冷却してから行うようにしてください）

■ **収束の仕方**

収束するときは本体、煙突パーツが十分に冷えてから作業してください。
煙突薄板の内側の灰や煤を雑巾などで拭き取ってから作業してください。
慣れるまでは収束作業時は軍手や革手袋などをして、怪我をしないよう気をつけてください。

1. 煙突パーツを用意する（煙突傘以外）

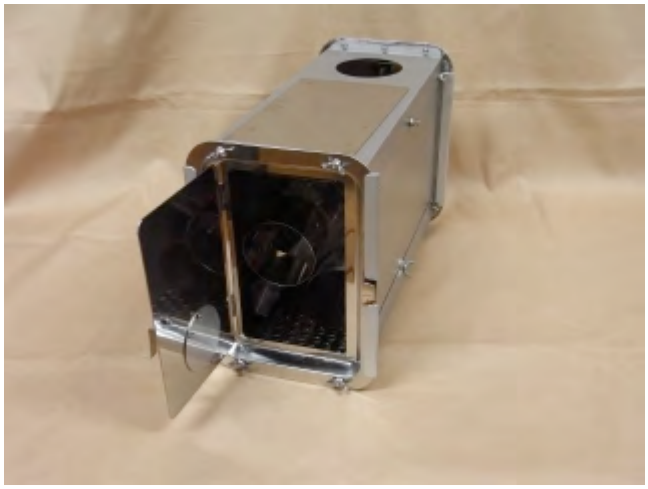
2. 煙突薄板1枚を筒状に丸める

3. 煙突薄板の筒

4. 煙突薄板の筒のダンパーインナーをかぶせる

5.　ダンパーインナーに通してまとめた煙突薄板の筒

6. 他のパーツを集める



7.パーツは本体の中に収納

8. 付属のベルトで本体上蓋が開かないよう止めておく。

※　取り扱い説明書の図面はA40、S40　を参考としています。
組み立て方は各タイプ共通です。

お疲れ様でした。

怪我や火災事故などのないよう、十分気をつけながら楽しんでください。

ＨＯＬＩＤＡＹ－ＲＯＡＤ